

2006 年度山谷夜回りの会活動報告

2007/4/20
文責 村井

1 はじめに

山谷夜回りの会をご支援いただきまことにありがとうございます。本年度の当会の活動報告書を皆様のお手元に送らせていただきます。

当会は 2002 年度まで、フランススコ会中谷神父主催の『山里の家』の炊き出しグループとして活動してまいりましたが、ご高齢になられた中谷師の体力的な問題などの事情で、『山里の家』としての炊き出し活動が中止となったため、2003 年度より『山谷夜回りの会』として新たに活動を開始いたしました。

『山谷夜回りの会』として活動をはじめてから、もう 4 年が過ぎ、5 年目に入ろうとしております。今まで活動を続けてこられたのも、お米・梅干・海苔・毛布・衣類・日用品・献金、そして祈りと励ましなど、様々な形でご支援くださいました皆様のおかげでございます。

格差社会という言葉が、メディアで大きく取り上げられるようになっておりますが、山谷地域で目にする光景は、格差の広がりつつある日本社会の一つの典型例です。格差が広がり、社会の中で弱い立場に置かれる方々が増えていく中で、小さくされた方たちとどう向き合っていけるのでしょうか。難しい課題ではございますが、これからも皆様と共に、一歩ずつ歩んでまいりたいと思っております。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

簡単ながら、今年一年間の活動の様子をご報告させていただきます。

2 山谷の町の様子

新聞などでは、景気の回復がニュースとなっており、全国的には野宿の方も減っていると伝えられています。しかしながら、山谷を回っておむすびをお配りしている実感といたしましては、景気の回復を実感させてくれる変化はほとんど無い、というのが正直なところでございます。

新宿や渋谷地域では、もともと会社勤めだったのに不況が原因で野宿生活に入った方が多いといわれています。しかし、山谷の町には、若いころから日雇い労働をしていたが、怪我や病気で仕事に就けなくなった方が多いという特徴がございます。このため、景気が多少良くなっても、若いころの肉体労働で傷ついた体でもできる仕事は、そう簡単には見つかりません。日本の高度経済成長を一番下で支えてきた方たちが、その恩恵を受けることなく、最悪の場合冬を越せずに亡くなっていく、そのような光景が今でも山谷の町にあります。

山谷地域でも地域生活移行支援事業でアパートに住むための援助が始まり、就職に向けて支援が行われております。しかし、すべての方がこの事業の対象となっているわけではありません。また、この支援はあくまで期限付きで、期限を過ぎて就職が決まらなければ再び路上生活に戻らざるを得ません。残念ながら、根本的な問題解決の日は遠い、そんな気がいたします。

3 おむすび

炊き出し・夜回りで、皆さんが一番喜んでくださるのは、何といたってもおむすびをお渡ししたときです。「おいしいよ、いつもありがとう」たくさんの方が声をかけてくださいます。今年度もおむすび作りには、カトリック町田・松戸両教会の皆さまを中心に、たくさんの方がご参加くださいました。おむすび作りを続けてまいりますのは、定期的に大量のお米をご寄付くださる方、御海苔・梅干をお届けくださる方、その他にもたくさんの方々のご支援のおかげでございます。本当にありがとうございます。皆さまのおかげで、今年度は約 11500 個、お米に換算すると約 820kg 分のおむすびを山谷の皆様にお届けすることが出来ました。

昨年度までは、おむすびを山谷まで輸送する人手や保管場所で四苦八苦することも幾度かございましたが、今年度は新しく輸送のお手伝いをしてくださる方も何名かでて下さったので、この点に関しては比較的安定して活動が行えたと思います。

当会の現状といたしましては、おむすびを作るメンバーと、配るメンバーが分業体制になっております。おむすびを作るのは主婦の皆さんで、配るのは学生・社会人が中心です。おむすびを作るメンバーは主婦の方が多いため夜回りの方への参加は難しい点がございしますが、山谷地域の様子も見ておきたいという声もございします。このため、お昼の時間帯などに、おむすびつくりのメンバーで山谷を回るような試みも、機会を見つけて実行していければと思っております。

4 衣類・日用品

昨年度より、一箇所に集まっていたきお配りする形から、おむすびと衣類・日用品を持って山谷地域を回ってお配りする形に変更いたしました。ほぼ同じ時間帯に同じルートで回っているため、こちらの到着を待っている方もかなり増えてまいりました。しかし、商店街などでは人が集まって待っているのは、ご近所の迷惑になります。そこで、ときどきルートを変更したりなどして、あまり一箇所に人が集まらないよう工夫してみましたが、多少の効果はあるようです。

衣類・日用品に関しましては、夏場の間はほとんど問題なくお配りできていたように思います。ただ、冬場に入りますと毛布やジャンパー類などのかさむものが多く、物資の保管、山谷までの車での運搬などで難しい点もいくつかございました。幸いなことに、今年は車での物資の運搬を担当するメンバーが何人か増え、多いときには車三台で毛布を運ぶこともできました。しかし、今年度の運搬担当の中には来年度は活動できないメンバーもいるため、次の冬までに何とか再び輸送手段を整える必要がございます。

今年度お配りできた衣類・日用品は、全体的には昨年度よりも多かったのですが、ジャンパー・セーターやタオル、靴下・ヒゲソリなど、いくつかの品目は、それでもかなり不足気味でした。また、川沿い方面では、毛布などの冬物をお配りするのに必要な人手と車を準備できない状況もございました。このあたりの問題をいかにして解決するか、が今後の課題となってまいります。

ジャンパー・セーター・タオルなど数が足りなかった品目に関しては、ご寄付の願いをより広い範囲に呼びかけることを検討しております。また、人手と車に関しても、冬場に毛布などをお配りするときは、毛布のみを集中的に配る日を別に設けたり、もう一台川沿い方面行きの車を手配するなどして対応していきたいと考えてございます。

5 御寄付と保管について

現在、ご寄付の保管場所がボランティアの個人宅に限られるため、そのときすぐにお配りできるもののみを募っております。けれども、もっとも衣類が出るのはやはり衣替えの時期であり、冬物から春物に変わる時期にも冬物を集めた方が良いのでは、という意見も出ております。今年度は、バザーの関係上一時的に田園調布教会に山谷用の衣類を置かせていただくことも出来ましたが、固定的にどこかのスペースを使えるようにするのは可能性が薄そうです。臨機応変に空いている場所を使わせていただくような形で、柔軟に対応できる方向を模索していきたいです。

6 山谷の現状を伝えることについて

当会は、ホームレス支援団体の中では比較的頻繁にホームページの更新を行うこともあって、インターネットで検索をかけたときに、当会のホームページが上位に表示されることがあるようです。そのため、山谷に関すること一般についてのお問い合わせや取材のお問い合わせなども、ときどき舞い込んでまいります。また、教会やボーイスカウトなどの団体に所属する中高生から大学生などの方たちが、山谷を知りたいということで、当会の炊き出しにときおりいらっしゃいます。

山谷や野宿の方たちについて知りたい方たちのご要望に、可能なかぎりお答えして、一人でも多くの方に山谷の現状を知っていただくことも、また一つの意義のある活動ではないかと考えております。初めて山谷を訪れた多くの皆さんがおっしゃるのは、ホームレスの方たちが普通の人で驚いた、ということです。ホームレスと呼ばれる状態に置かれた方たちが、自分と変わらない普通の人間であるということ、また誰しもその状態になりうる可能性があるということが、より多くの方に理解していただければと願っております。

7 会計報告と口座について

今年度も皆さまから大変たくさんのご寄付をたまわりました。中でもおむすびづくりでも大変お世話になっております松戸教会からは、今年もバザー売り上げをご寄付としていただきました。どうもありがとうございました。簡単ながら、2006年度の会計報告をさせていただきます。

具体的な用途といたしましては、毛布と防寒具、衣類・日用品の購入、おむすび作り用のお釜の購入、おむすび運搬用のアイスノンの購入などとなっております。内訳といたしましては冬場の毛布・防寒具類の購入費が大きなウェイトを占める形となっております。

今年度の繰越金 25,000 円は、2007 年度のおにぎり活動費や日用品購入費に充てさせていただきます。どうぞご了承下さい。

当会のご寄付の口座ですが、下記になっております。2007 年度もご支援どうぞよろしくお願いいたします。

郵便振込 口座番号：00130-6-759149 口座名称：山谷夜回りの会を支える会

以下に 2006 年度の会計報告を掲載させていただきます。

2006 年度山谷夜回りの会会計報告書

(2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日)

(単位:円)

	科目	金額
1. 収入の部(A)	前年度繰越金	96667
	寄付金収入	789501
	合計	886168
2. 支出の部(B)	毛布代(1050 枚)	425000
	衣類・日用品代	370728
	その他	52000
	通信費・印刷代	13440
	合計	861168
3. 次年度繰越金(A-B)		25000